

科目番号	53001	分類	共通科目	履修者	看護科学コース	学年				
科目名	看護理論 (Nursing Theory)					1				
						配当シスター				
						前期				
担当者	○松山友子・岩満裕子・竹内朋子			区分	選択	単位	2	時間数	30	
授業の概要および目標							学位授与の方針との関連			
看護学の発展の中で、看護理論がどのような経緯で開発されてきたかを概観したうえで、主要な看護理論の特徴や限界を検討すると共に、自らの経験と照らして看護の実践・教育・研究における看護理論の適用と課題を考察する。							○	1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力		
1. 看護学の発展と共に、看護理論がどのような歴史的経緯で開発されたのかを理解する。								2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力		
2. 看護理論を評価する枠組みを理解し、この評価枠組みを用いた分析を通し、主要な看護理論の特徴や限界を検討する。								3. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力		
3. 自らの経験に照らして、それぞれの専門領域の実践・教育における看護理論の適用と課題を考察する。								4. 看護管理者として、臨床現場においてリーダーシップをとりながら、エビデンスに基づく看護マネジメントができる能力		
								5. 実践を行いながら学部学生の臨床実習を指導できる能力		
授 業 計 画										
回	内 容								担当教員	
第1・2回	看護理論発展の歴史 看護理論とは 看護理論の定義、理論の構成要素、理論の範囲								松山 岩満 竹内	
第3回	看護理論の分析と評価の理解 Fawcett・Meleisによる看護理論の分析と評価									
第4・5回	看護理論の分析・評価①									
第6・7回	看護理論の分析・評価②									
第8・9回	看護理論の分析・評価③									
第10・11回	看護実践・教育への理論の適用①									
第12・13回	看護実践・教育への理論の適用②									
第14・15回	看護実践・教育への理論の適用③									
事前・事後学習	事前学習：事前配布されたプレゼンテーション資料に目を通し、ディスカッションの準備をする。 事後学習：資料の加筆・修正、ディスカッションのまとめを行う。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。									
評価の方法	プレゼンテーション（40%）、ディスカッションへの参加状況（30%）、最終レポート（30%）。 により総合的に評価する。フィードバックは適宜行う。									
参考図書 ・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・Fawcett,J.著；大滝喜久子・筒井真優美監訳：フォーセツト看護理論の分析と評価 新訂版, 医学書院,2008. ・Marriner & Tomey,A.著；都留信子監訳：看護理論家とその業績第3版, 医学書院, 2011. ・Meleis,A.I.：Theoretical Nursing: Development and Progress (5thEd), Lippincott Williams & Wilkins,2011. ・Walker,L,O &Avant,K,C 著；中木高夫・川崎修一監訳：看護における理論構築の方法, 医学書院,2008. 									
備 考	本授業はゼミナール形式で行う。 オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。									